

2023年度業務計画

2023年5月

株式会社 東京金融取引所



本年度は、中期経営計画の最終年度(2024年度)に向けて、ホールセール事業においては、新規上場したTONA先物取引の活性化に注力するとともに、リテール事業においては、商品拡充及び参加者拡大等を図る。また、システムについては、次期システムの最適な開発方法を決定する。



TOKYO FINANCIAL EXCHANGE

1. 市場環境と主な取引の見通し

(1) 市場環境

世界的な高インフレ及び金利上昇の継続により景気減速が予想されるが、年度後半にはこれらがピークアウトし、緩やかな景気回復を見込む。一方、地政学リスクの状況によっては経済活動の停滞も想定される。

(2) 証拠金取引(為替・株価指数)

「くりっく365」については、過去5年の実績並みの取引数量を見込む。

「くりっく株365」については、過去5年の実績をベースに、マーケットメイカーの増加によるスプレッド縮小・流動性改善や商品の品揃え拡充を図り、取引数量の増加を見込む。

(3) 金利先物取引

日銀の新総裁の下で異次元緩和修正がどのように進むかに注目が集まる中、TONA先物市場の取引数量の緩やかな拡大を見込む。

2. 方針

- (1) リテール事業については、商品の拡充、市場流動性向上、投資家層の多様化など取引基盤の拡大により、取引数量の増加を図る。
- (2) ホールセール事業については、TONA先物取引の活性化を図るとともに、新商品や新規事業の開発にも継続して取り組む。
- (3) システムの安定稼働を確保するとともに、次期システム更改について、機能改善・コスト削減の観点から最適な開発方法を決定する。
- (4) 多種多様な企業との情報交換及びネットワーク作りにより、事業分野の拡張や取引相手の拡大に取り組む。

3. 具体策(1)

(1) リテール事業

① CFDの拡充

- ・新商品の登場(ラッセル2000^(注)、銀ETF、プラチナETF) (登場目処:2023年9月)
(注) ラッセル2000は米国の代表的な小型株指数であり、景気の影響を受けやすく米経済の先行指標としても注目されている。大型株指数であるNYダウ・NASDAQ-100を補完して、個人投資家の米国株に対するニーズに応える。
- ・登場商品の更なる品揃え拡充の検討(天然ガスETFの価格、海外排出量市場の指数にかかるCFD等)

② マーケットメイクの強化

- ・ETF関連商品の増加と市場構造の変化^(注)に対応した、市場流動性の強化・改善
(注) 主要なマーケットプレイヤーが大手金融機関からHFT等にシフトしていること等

③ 新たな取引ニーズの掘り起こし

- ・法人・海外投資家等多様な投資家へのマーケティング、営業勧奨の強化

④ FXクリアリングの取引拡大(利用促進)

- ・取引参加者のカバー取引環境などの変化に応じた勧奨強化
- ・業界内への市場周知等利用効果のPR強化

3. 具体策(2)

(2) ホールセール事業

① TONA先物の流動性向上

- ・期先限月までの流動性向上に向けた取引参加者の拡充
- ・国内外の幅広い投資家の認知度向上に向けたプロモーション活動の強化

② 新商品の開発

- ・中長期金利商品の検討
- ・排出量関連取引の検討

③ 新規事業の開発 信用リスク管理ツールの検討

- ・取引プラットフォーム案の具体化
- ・大手銀行や地域金融機関等幅広い関係者との意見交換の推進

(3) システム

次期システムについて、ホールセールシステムとリテールシステムの一元化やクラウドの活用強化の検討により、業務機能・性能・信頼性の向上とコスト削減を両立させる開発方法を決定
(決定目処:2024年3月)

(4) 広報活動

事業分野の拡充や取引相手の拡大に係る当社の経営スタンスについて広く情報発信